

## 月惑星科学研究コンソーシアム構想 Lunar and Planetary Science Consortium Plan

倉本 圭<sup>1\*</sup>  
Kiyoshi Kuramoto<sup>1\*</sup>

<sup>1</sup> 日本惑星科学会  
<sup>1</sup>Japanese Soc. Planet. Sci.

「かぐや」と「はやぶさ」は太陽系について多くの発見をなしとげ、理論や地上装置による研究が牽引してきた我が国の惑星科学に、新展開をもたらした。今後の新たな月惑星探査に、研究者はむろん国民も期待を寄せており、多様なプランが活発に検討されつつある。その一方で、歴史の浅い我が国の惑星科学において、巨大科学である月惑星探査を、惑星科学研究の新たな支柱として定着させ展開するためのコミュニティ基盤の形成が急務の課題となっている。そのための一つの提案として、月惑星科学研究コンソーシアム構想について紹介する。

月惑星探査の性格として、巨大大事業であり多様な人材を長期に渡って要すること、手法と対象に多岐の選択肢が存在し、科学面だけでなく技術面や費用面など多角的な見地からの検討や検証が必要となること、取得データに希少性があると同時にしばしば膨大になること、打ち上げ間隔がしばしば長期に渡ること、等が挙げられる。月惑星科学コンソーシアム構想では、機能分化した拠点のネットワークを作ることにより、上述の特性を持つ月惑星探査を、惑星科学コミュニティが多面的に分担して支え展開する仕組みの構築を模索する。

本構想のシーズは、近年、各々の献身的努力によって進められてきた大学内あるいは大学間研究教育組織の立ち上げにある。これらの組織はそれぞれ、惑星科学コミュニティにおける知見集積と国内外人材交流、月惑星探査データベースの構築配信、惑星探査機器の基礎開発、惑星大気シミュレーションモデルの開発提供、地上分析装置の開発など、それぞれ機能分化した特色ある活動を推進しつつある。これらの組織を有機的に結合しながら拠点として実質化させ、惑星科学に関連する科学コミュニティと JAXA/ISAS および海外組織と密接な協力関係を形成し、月惑星探査を惑星科学の支柱として展開したい。

なお、本構想の立案には多くの方々のご協力を頂いている。単著の形をとっているが、日本惑星科学会将来計画委員会において検討しつつある提案として御理解願いたい。

キーワード: 月惑星探査, 基盤形成, 連携, 組織化  
Keywords: lunar and planetary exploration mission, infrastructure, organization, cooperation